

全日本高等学校書道教育研究会
第46回大会（愛媛大会）

**新しい教育課程と
これからの高等学校芸術科書道
～学習評価を中心に～**

文部科省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

豊口 和士

令和3（2021）年10月20日

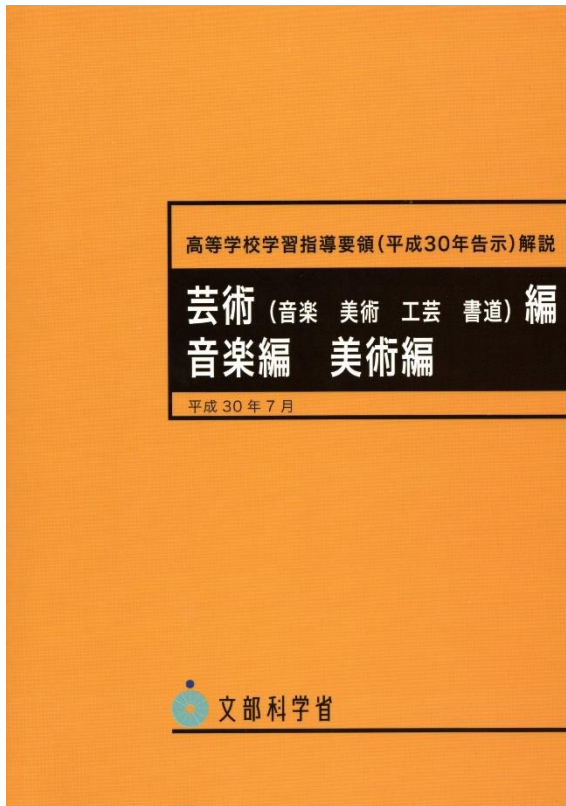
いま、押さえておくべきこと

- 1 新しい学習指導要領について
- 2 GIGAスクール構想のもとでの
高等学校芸術科書道の指導について
～芸術科書道の目標や特質に応じた
ICT(1人1台端末)の活用～
- 3 新しい学習評価について

1 新しい学習指導要領について

1 新しい学習指導要領について

新しい学習指導要領では，目標及び指導内容を「育成を目指す資質・能力」の三つの柱で整理し直しました。



「育成を目指す資質・能力」の
三つの柱

「知識及び技能」

「思考力，判断力，表現力等」

「学びに向かう力，人間性等」

1 新しい学習指導要領について

芸術科 目標

< 現行 >

芸術科 目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

< 改訂後 >

芸術科 目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

書道 I 目標

< 現行 >

書道 I 目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

< 改訂後 >

書道 I 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

書道 I 2 内容 A 表現

例：(1) 漢字仮名交じりの書

< 現行 >

書道 I A 表現 (例：漢字仮名交じりの書)

表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 漢字仮名交じりの書

ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。

イ 漢字と仮名の調和した線質の表し方を習得すること。

思考力，判断力，表現力等

ウ 字形，文字の大きさと全体の構成を工夫すること。

エ 名筆を生かした表現を理解し，工夫すること。

オ 目的や用途に即した形式，意図に基づく表現を工夫すること。

知識

技能

< 改訂後 >

書道 I A 表現 (例：漢字仮名交じりの書)

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら，次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。

(ア) 漢字と仮名の調和した字形，文字の大きさ，全体の構成

(イ) 目的や用途に即した表現形式，意図に基づいた表現

(ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり

(イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 目的や用途に即した効果的な表現

(イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現

1 新しい学習指導要領について

書道 I 2 内容 B 鑑賞

< 現行 >

書道 I B 鑑賞

鑑賞に関して、次の事項を指導する。

ア 日常生活における書への関心を高め、その効用を理解すること。

イ 見ることを楽しみ、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ること。

ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること

思考力，判断力，表現力等

エ 漢字の書体の変遷，仮名の成立等を理解すること。

知識

< 改訂後 >

書道 I B 鑑賞

鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって捉えること。

(ア) 作品の価値とその根拠

(イ) 生活や社会における書の効用

イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。

(ア) 線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり

(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化

(ウ) 漢字の書体の変遷，仮名の成立等

(エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態

1 新しい学習指導要領について

〔共通事項〕

〔共通事項〕 ⇒ 「**知識**」に関する資質・能力として新設

表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。 **知識**

イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。 **知識**

⇒ 表現と鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力

⇒ 表現と鑑賞の指導を通して、身に付ける

※ 書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで共通

※ 音楽：ア「思考力、判断力、表現力等」、イ「知識」

美術・工芸：ア「知識」、イ「知識」

1 新しい学習指導要領について

書道 I 2 内容 A 表現

例：(1) 漢字仮名交じりの書

< 現行 >

書道 I A 表現 (例：漢字仮名交じりの書)

表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 漢字仮名交じりの書

- ア 用具・用材の特徴を理解し、
- イ 漢字と仮名の調和した線質のすること。
- ウ 字形、文字の大きさと全体の構成を工夫すること。
- エ 名筆を生かした表現を理解し、工夫すること。
- オ 目的や用途に即した形式、意図に基づく表現を工夫すること。

< 改訂後 >

書道 I A 表現 (例：漢字仮名交じりの書)

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 用具・用材の特徴や技能の習得や知識の獲得までに関わり、
 - (イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現や名筆を生かした表現や現代に生きる表現の理解を深めること。
 - (ウ) 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
 - (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり
 - (イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり
- (2) 次の(ア)及び(イ)の効果的な表現
- (イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現

用具・用材の特徴と
表現効果との関わり

表現と用筆・運筆
との関わり

知識

1 新しい学習指導要領について

書道 I 2 内容 B 鑑賞

< 現行 >

書道 I B 鑑賞

鑑賞に関して、次の事項を指導する。

- ア 日常生活における書への関心を高め、その効用を理解すること。
- イ 見ることを楽しみ、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ること。
- ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること。
- エ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解すること。

知識

< 改訂後 >

書道 I B 鑑賞

鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。

線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり

- ア 鑑賞の意義や価値と、鑑賞を通して書に親しむことができること。
- イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。
 - (ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり
 - (イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化
 - (ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等
 - (エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態

「A表現」と「B鑑賞」との相互関連

書道 I 内容の取扱い

(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、**「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図るものとする。**

ここでは、「A表現」及び「B鑑賞」のそれぞれの指導事項を相互に関連付けて、「A表現」及び「B鑑賞」の関連を図りながら指導することにより、広く書に関わる資質・能力を育成することを示している。

「(1)漢字仮名交じりの書」、「(2)漢字の書」及び「(3)仮名の書」のそれぞれの「A表現」の指導では、「B鑑賞」での学習を通して身に付けた資質・能力や学習成果を生かしながら「A表現」での学びを深め、「B鑑賞」の指導においては、「A表現」での学習を通して身に付けた資質・能力や学習成果を生かしながら「B鑑賞」での学びを深められるよう、常に相互に関連を図りながら展開させていくことが大切である。

書に関する見方・考え方

芸術科（書道）における「見方・考え方」



「書に関する見方・考え方」

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。

書に関する見方・考え方

<総則編より>

第1章 総説

第1節 改訂の経緯及び基本方針

2 改訂の基本方針

(3)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

④ **深い学びの鍵**として「**見方・考え方**」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

2 GIGAスクール構想のもとでの 高等学校芸術科書道の指導について ～芸術科書道の目標や特質・特性に応じた ICT(1人1台端末)の活用～

GIGAスクール構想のもとでの【芸術科（書道）】の指導において ICTを活用する際のポイント

1. 高等学校芸術科（書道）におけるICTの効果的な活用

高等学校芸術科（書道）においては、用具・用材の特質・特性を体感したり、実物と直接向き合ったりする学習活動と、ICTを活用する学習活動とを、学習内容やその段階に応じて適切に関連付けながら、効果的に指導できるよう工夫することが重要である。

2. 新学習指導要領に示した「A表現」及び「B鑑賞」の指導におけるICTの活用

「A表現」では、「B鑑賞」との関連を図る上で、コンピュータやプロジェクタ、大型モニター等の機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。範書の提示に広く活用される実物投影機（OHC）の他、映像撮影機器やタブレット型のコンピュータを活用し、生徒の制作過程を撮影し、クラス内での共有や対話を通して相互に考えを深める活動や、生徒の作品を撮影・記録・蓄積し、学習成果やその変容の比較・検証に主体的に取り組めるポートフォリオは、書道におけるICT活用の好例と言える。映像撮影機器を活用し、運筆での自身の筆などの運動を分析的に捉えたり振り返ったりすることは、書の重要な特性である運動性や時間性について主体的に深く考える上で有効である。

「B鑑賞」では、情報通信ネットワークを活用した調べ学習の他、「A表現」との関連を図る上で、映像機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。「A表現」での生徒の制作過程及び作品の画像や映像を取り上げて生徒の作品の固有の価値について考えさせたり、実物と直接向き合えない古典や名筆、鑑賞の方法や場を考える上での教材となる展示物や建築様式等について、美術館、博物館等のWeb ページ掲載の画像を活用したりするなど、今次改訂で示した鑑賞活動の幅に対応した工夫が求められる。

高等学校・第1学年・芸術科（書道）・「書道Ⅰ」①

～「A表現」における臨書の学習とICTの活用～

＜学習過程＞

前時の学習の振り返り

試書

古典の書風・既習の知識・範書の確認、（意見交換）

表現の工夫＜構想・自己課題の設定＞

表現＜作品制作＞

作品と表現の工夫の共有・意見交換

既存の知識の再確認・新たな知識の確認

表現の工夫の見直し＜構想・自己課題の再設定＞

表現＜作品制作＞

作品と表現の工夫の共有・意見交換

表現の工夫の見直し

自己評価＜次時に向けた構想・課題の見直し＞

本時の学習のまとめ

活動の目標

「書道Ⅰ」での「A表現」の古典の臨書においては、古典を通して、書体や書風と用筆・運筆との関わりや、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解し、古典に基づく基本的な用筆・運筆や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付け、それらを得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や、意図に基づいた表現について構想・工夫し、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとすることが目標となる。

ICT活用のポイント

ICT機器、コンピュータ等のカメラ付きICT端末、学習支援ソフト等を使って、作品を共有して相互鑑賞や意見交換をしたり、学習の振り返りや表現の工夫に生かすことに主体的に取り組んだり、インターネット等により書の表現の多様性に触れたりする学習活動において、書の特質・特性に応じてICT端末の利点を生かし、効果的に活用することが重要である。

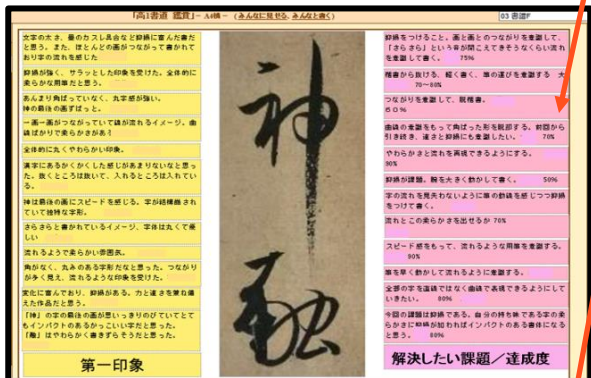
事例の概要

ここでは、臨書の学習過程の汎用的な例を取り上げている。ICT端末を活用する活動場面として、書風の特徴等を捉え理解を深めるために、示範動画や多様な例を示す場面、作品の共有・相互鑑賞及びそれに伴う意見交換に見方・考え方を働かせる場面、それぞれが表現の工夫の見直しに取り組む際、表現における自身の運筆の様子を撮影した動画や指導者による示範動画を主体的に振り返ったり繰り返し視聴したりすることにより、理解や思考を深めたり表現の工夫の幅を広げたりする場面などを設定している。

高等学校・第1学年・芸術科（書道）・「書道Ⅰ」②

～書の特質・特性に応じたICTの効果的な活用～

【作品の共有・相互鑑賞，意見交換】



【生徒自身の運筆動画の撮影】



【ICTの効果的な活用が期待される場面】

- ICT端末により撮影・記録した動画や画像をクラス全体で共有し，相互鑑賞や意見交換等の言語活動を，見方・考え方を働かせた全体によるリアルタイムでの意見交換へと充実・発展させる。
- 直接見たり触れたりすることができない資料や，実物では味わえないものの画像等を大画面やICT端末等で効果的に提示し，理解を深めさせる。
- 教科書や配付資料に加え，多様な作品や書の例を提示したり，インターネットを活用したりすることで，書の表現の多様さや書独特の表現性や表現効果への理解を深めさせる。
- 自身の学習過程・思考過程をデジタルポートフォリオとしてクラウドに記録・蓄積したのや，教師による個人および集団に対する指導の動画を，ICT端末を利用して生徒それぞれのペースで振り返ったり繰り返し確認したりできることで，自らで思考を深めながら学習を進めたり，主体的に表現の工夫に生かしたりすることを促す。

【ICT活用のメリットと留意点】

- 見方・考え方を働かせた他者との交流・言語活動を生かして，生徒それぞれのペースで学習を振り返り，自らで思考を深めながら主体的に学習を進めたりする上で効果的である。
- 書の特質・特性に応じて，運筆・線質等に関わる指導内容(遅速・緩急・抑揚・呼応等)や，運動性や時間性等について，動画のスロー再生等の機能を使って，生徒が主体的に理解を深める上で効果的である。
- 一方で，ICT端末による画像や動画では，書の多様な美や書の特質・特性に大きく関わる筆者の性情，呼吸，息づかい等は伝わりづらいため，ICTの利点を効果的に活用するとともに，従来の指導・学習の方法を適切に併用するなど，書の特質・特性に応じたICTの効果的な活用の工夫が重要である。

【活用したソフトや機能】

写真・動画撮影機能，学習支援ソフト

2 GIGAスクール構想のもとでの芸術科(書道)の指導について

新学習指導要領とICTの効果的な活用

書道においては、用具・用材の特質・特性を体感したり、実物と直接向き合ったりする学習活動と、ICTを活用する学習活動とを、学習内容やその段階に応じて適切に関連付けながら、効果的に指導できるよう工夫することが重要である。

「A表現」では、「B鑑賞」との関連を図る上で、コンピュータやプロジェクタ、大型モニター等の機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。

範書の提示に広く活用される実物投影機(OHC)については、レンズ部の高さや、運筆における筆などの動きをスムーズに映す機能などに課題もあり、機器の機能や選択に留意する必要がある。

映像撮影機器やタブレット型のコンピュータを活用し、生徒の制作過程を撮影し、クラス内での共有や対話を通して相互に考えを深める活動や、生徒の作品を撮影・記録・蓄積し、学習成果やその変容の比較・検証に主体的に取り組めるポートフォリオは、書道におけるICT活用の好例と言える。

映像撮影機器を活用し、運筆での自身の筆などの運動を分析的に捉えたり振り返ったりすることは、書の重要な特性である運動性や時間性について主体的に深く考える上で有効である。

「B鑑賞」では、情報通信ネットワークを活用した調べ学習の他、「A表現」との関連を図る上で、映像機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。「A表現」での生徒の制作過程及び作品の画像や映像を取り上げて生徒の作品の固有の価値について考えさせたり、実物と直接向き合えない古典や名筆、鑑賞の方法や場を考える上での教材となる展示物や建築様式等について、美術館、博物館等のWebページ掲載の画像を活用したりするなど、今次改訂で示した鑑賞活動の幅に対応した工夫が求められる。

2 GIGAスクール構想のもとでの芸術科(書道)の指導について

自身の制作過程での運筆の動画を撮影



記録・蓄積

自身の作品を撮影



全体で作品を共有し、相互鑑賞・相互批評



共有・対話・交流

自身の制作過程の動画，教員の示範動画を活用した学習



思考・判断
主体的取組

ICTを活用することで・・・

制作過程における運筆，筆などの運動を記録・蓄積し，客観視したり，ポートフォリオとして学習成果や変容の比較・検証に主体的に取り組むことに有効。

※一人1台のカメラ付きのタブレット型コンピュータ等が必須。

記録した動画や画像をクラス全体で共有・相互鑑賞し，意見交換や相互批評等の言語活動を，見方・考え方を働かせた全体での対話・交流へと充実・発展させるのに有効。

2 GIGAスクール構想のもとでの芸術科(書道)の指導について

感じ方や捉え方の共有, 個々に設定した課題の共有

「高1書道 鑑賞」- A4横 - (みんなに見せる, みんなと書く) 03 書道F

文字の太さ、量のカスレ具合など鉤線に富んだ書だと思ふ。また、ほとんどの画がつながって書かれており字の流れを感じた。

鉤線が強く、サラッとした印象を受けた。全体的に柔らかな用筆だと思う。

あんまり角ばってなくて、丸みがある。神の最後の画がぼんやりしている。

一画一画がつながってて、線が流れるイメージ。曲線ばかりで柔らかい感じがする。

全体的に丸くやわらかい印象。

漢字にあるかかしくした感じがあまりないなと思った。流れるような感じがした。

角がなく、丸みのある字形だなと思った。つながりが多く見え、流れるような印象を受けた。

変化に富んでおり、鉤線がある。力と速さを兼ね備えた作品だと思う。

「神」の字の最後の画が思い通りのびていてとてもインパクトのあるかっこいい字だと思った。「龍」はやわらかく書きすぎたと思った。

第一印象

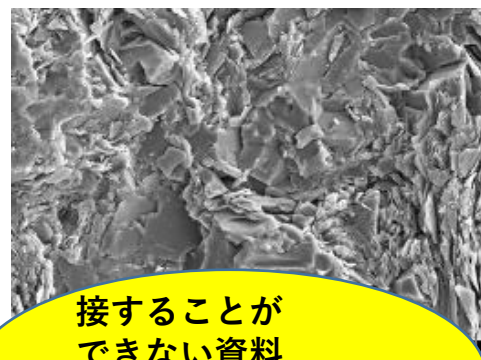
解決したい課題/達成度

- 鉤線をつけること。画と画とのつながりを意識して、「さらさら」という音が聞こえてきそうなくらい流れを意識して書く。 75%
- 雑音から抜けて、軽く書く。筆の運びを意識する。 大 70~80%
- つながりを意識して、脱線書。 0%
- 曲線の筆運びをもって角ばった形を脱線する。前図から引き続き、速さと鉤線にも意識したい。 70%
- やわらかさと流れを再現できるようにする。 90%
- 鉤線が課題。腕を大きく動かして書く。 50%
- 字の流れを見失わないように筆の動線を感じつつ鉤線をつけて書く。 70%
- 流れとこの柔らかさを出せるか 70%
- スピード感をもって、流れるような用筆を意識する。 90%
- 筆を早く動かして流れるように意識する。
- 全部の字を直線ではなく曲線で表現できるようにしていきたい。 80%
- 今回の課題は鉤線である。自分の持ち味である字の柔らかさと鉤線が合わさればインパクトのある書体になると思う。 80%

感じ方や捉え方、考え方の交流

インターネットの活用

硯面の電子顕微鏡拡大画像



多様な表現

接することができない資料
実物では味わえない世界

インターネットを活用した表現(創作)活動

意見交換・相互批評 (ICTを活用した言語活動)

「高1書道 みんなの「道」」- A4横 - (みんなに見せる, みんなと書く) 06 書道作品共有6(みんなの)

力強く、そして美しく見せるために線は太く、字形は丸くなるように意識して書いた。

筆の部分が丸まった字で書かれていて面白くて、最後の画が力強くとても綺麗だと思った。

太さが揃って整った感じを出しながらも一画一角の隙間がゆるやかなのでやわらかく感じました。

流れるような細くしなやかで、メリハリのある線を書くことができた。本来つながっている線も、分けて書くことで、流動感をあらわした。

独特な書風で、流動感がありながらも奥行きを帯びている字であると感じた。字がのびのびとしてとても良いと感じた。自分にはない書風で参考にした。

かざる字体でアクティブな字になっています。今にも動き出しそうなおもしろい字です。 1E名者

どっしりと重みのある「道」となるように、太く横長に書いた。また、しんよりの割れ上げを自分なりに工夫し、後とは違う「道」にした。

しっかりと重みのある形で書いていると思います。美しい感じが出ていていいと思います。

丸く重くしっとりかけていていいと思います。線が全体的に丸くなっていて流れるような筆感が出ていていいと思います。

流れるように、さらさらとした“道”を表現したいと思って書きました。軽いつけが表現できたと思います。

川のように流れるような筆の運びをしつつ全体のバランスを崩さず、整った形をしていて美しい。

それぞれの画が、次の画につながって書かれていてよいと思いました。特に、1画目と2画目、1画目の太さと形がとてもきれいです。

リアルタイムでの共有・対話・交流

個性・創造性



ICTを活用することで・・・

リアルタイムでの共有・意見交換が可能。

生徒個々の個性や創造性に応じた学習に有効。

2 GIGAスクール構想のもとでの芸術科(書道)の指導について

生徒を教卓回りに集めての直接示範



ICTの利点を
生かした転換

書の特性に応じた
工夫(併用)

示範動画を大型提示装置に提示，学習者用コンピュータへ配信



ICTを活用することで…

自身の学習過程・思考過程はもちろんのこと、教師による個人および集団に対する指導を、**生徒個々のペース**で振り返り、**繰り返し確認**することで、自らで**思考を深め**ながら学習を進めることが可能。

運筆・線質に関わる指導内容（遅速・緩急・抑揚・呼応等）への理解を、生徒が**主体的**に深めることが可能。

書道の学習で重要な**運動性や時間性**について、スロー再生等の機能を使って理解を深めることが可能。

書道におけるICT活用上の留意点

ICTによる画像や動画では、**書の多様な美や書の特性**に大きく関わる**筆者の性情、呼吸、息づかい**等は伝えづらい。

ICTの利点を生かし、従来の指導・学習の方法と併用するなど、**書の特性に応じたICTの効果的な活用**の工夫が必要。

用具・用材の特質・特性を体感したり、
実物と直接向き合ったりする学習活動

学習内容やその段階に応じて
適切に関連づけながら、
効果的に指導できるよう
工夫

I C Tの利点を
生かした転換

書の特性に応じた
工夫(併用)

I C Tを活用する学習活動

I C Tを活用することで・・・

自身の学習過程・思考過程はもちろんのこと、教師による個人および集団に対する指導を、**生徒個々のペース**で振り返り、**繰り返し確認**することで、自ら**思考を深め**ながら学習を進めることが可能。

運筆・線質に関わる指導内容（**遅速・緩急・抑揚・呼応等**）への理解を、生徒が**主体的に**深めることが可能。

書道の学習で重要な**運動性や時間性**について、スロー再生等の機能を使って理解を深めることが可能。

ICTを活用することで・・・

書道におけるICT活用上の留意点

ICTによる画像や動画では、**書の多様な美**や**書の特質・特性**に大きく関わる**筆者の性情**、**呼吸**、**息づかい**等は伝えづらい。

ICTの利点を生かし、従来の指導・学習の方法と併用するなど、**書の特質・特性**に応じた**ICTの効果的な活用**の工夫が必要。

ICTを効果的に活用するために

新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた上で、三つの柱で示された育成を目指す資質・能力を明確にし、その育成のためにICTを効果的に活用することが大切。

I C T を効果的に活用するために

高等学校学習指導要領「書道 I」 1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識 及び 技能

(1) 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

思考力， 判断力， 表現力等

(2) 書のよさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

学びに 向かう力， 人間性等

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 学習評価について

3 学習評価について

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化，高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し，目標や内容を構造的
に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など，新しい時代に求
められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず，質
の高い理解を図るための
学習過程の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については，些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており，
そうした点を克服するため，重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

3 学習評価について

育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

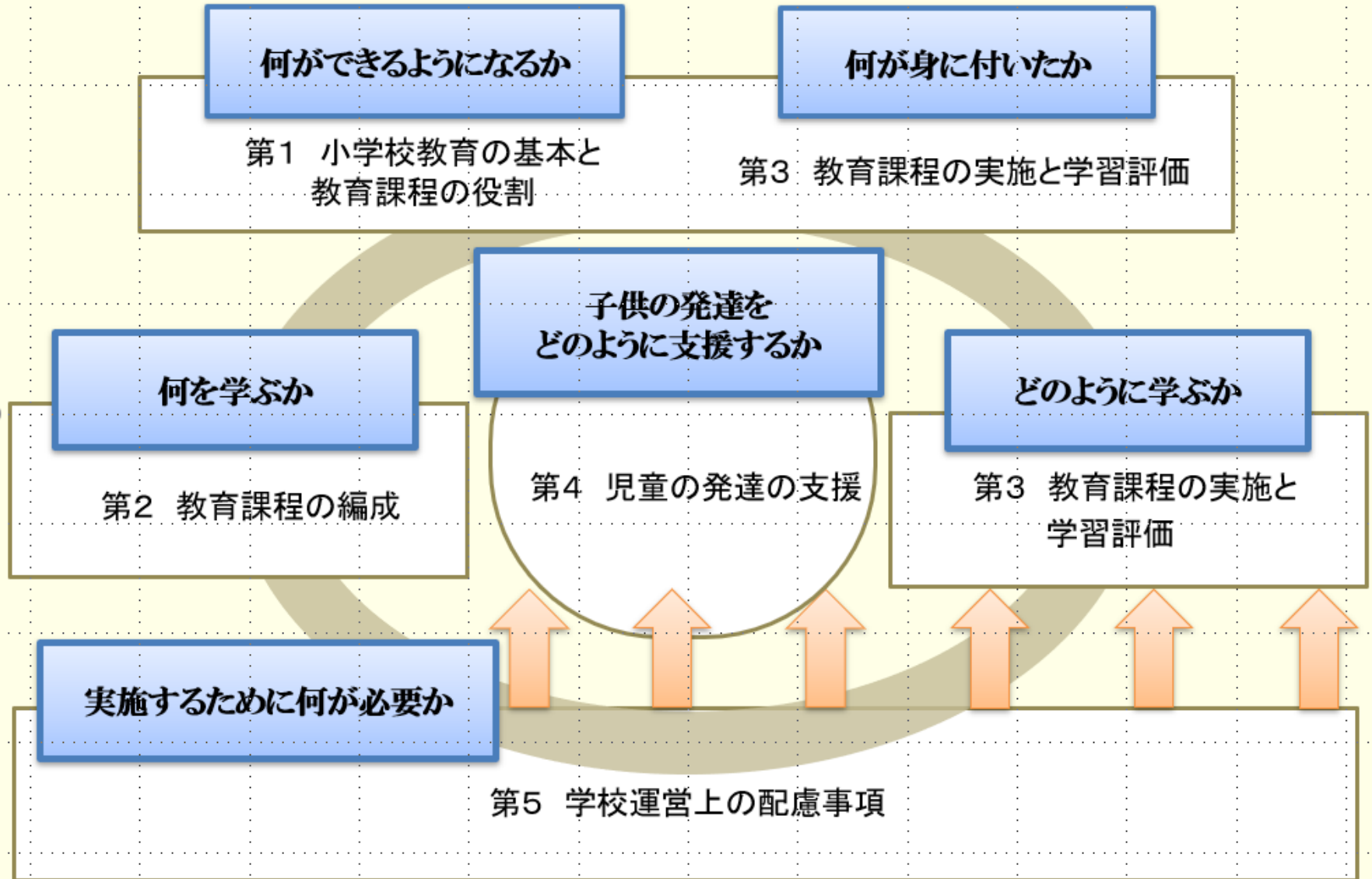
思考力、判断力、表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

3 学習評価について

学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメント



学習評価 関連資料

国立教育政策研究所



答 申

「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

平成28年12月21日 中央教育審議会

報 告

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」

平成31年1月21日

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会

改善等通知

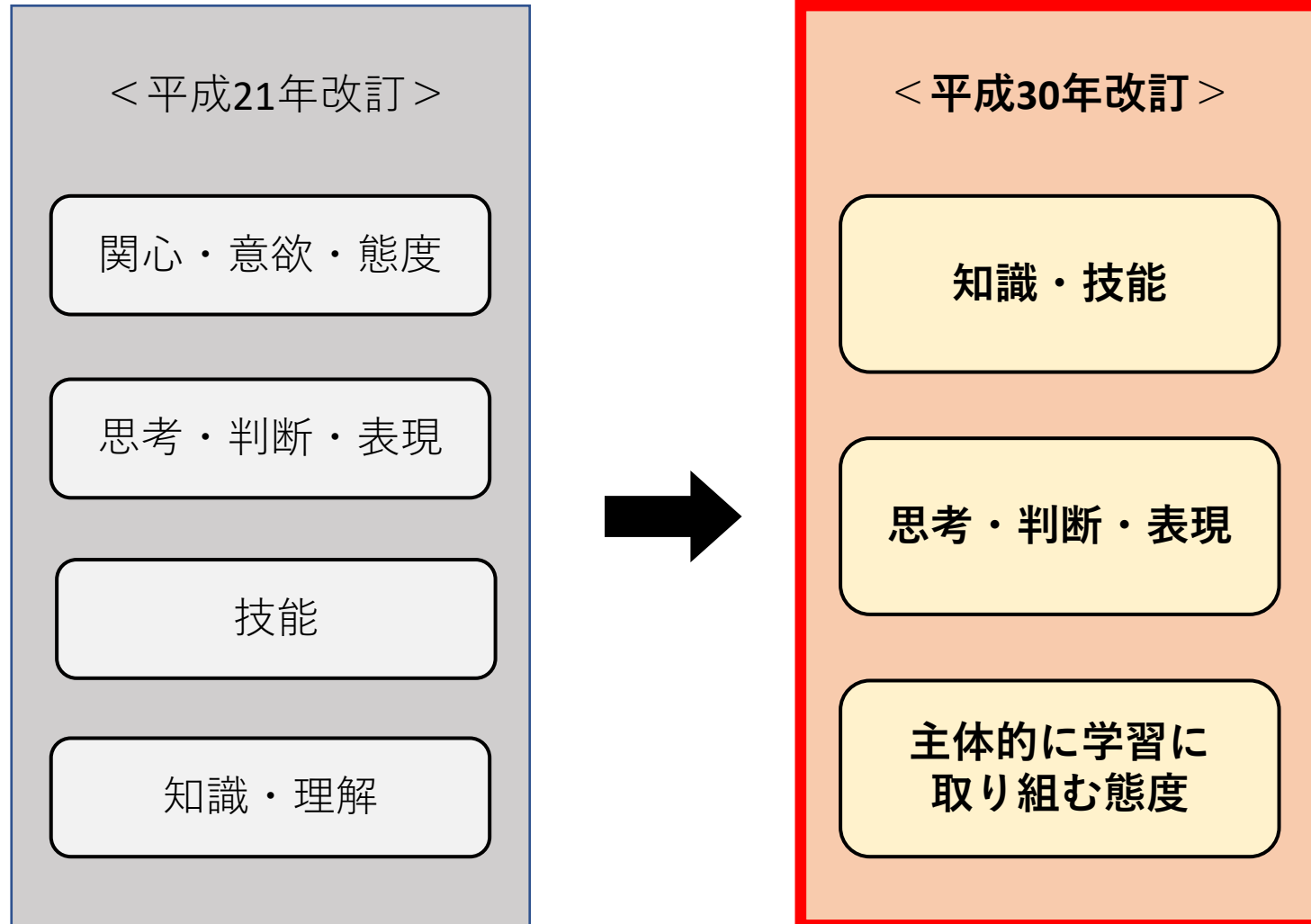
「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

平成31年3月29日 初等中等教育局長通知

⇒ 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」

国立教育政策研究所

観点別学習状況の評価の観点



3 学習評価について

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業中での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切です。平成30年改訂学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

✓ 教師の指導改善に
つながるものにしていくこと

✓ 生徒の学習改善に
つながるものにしていくこと

✓ これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは
見直していくこと

次の授業では
〇〇を重点的に
指導しよう。



〇〇のところは
もっと～した方が
よいですね。



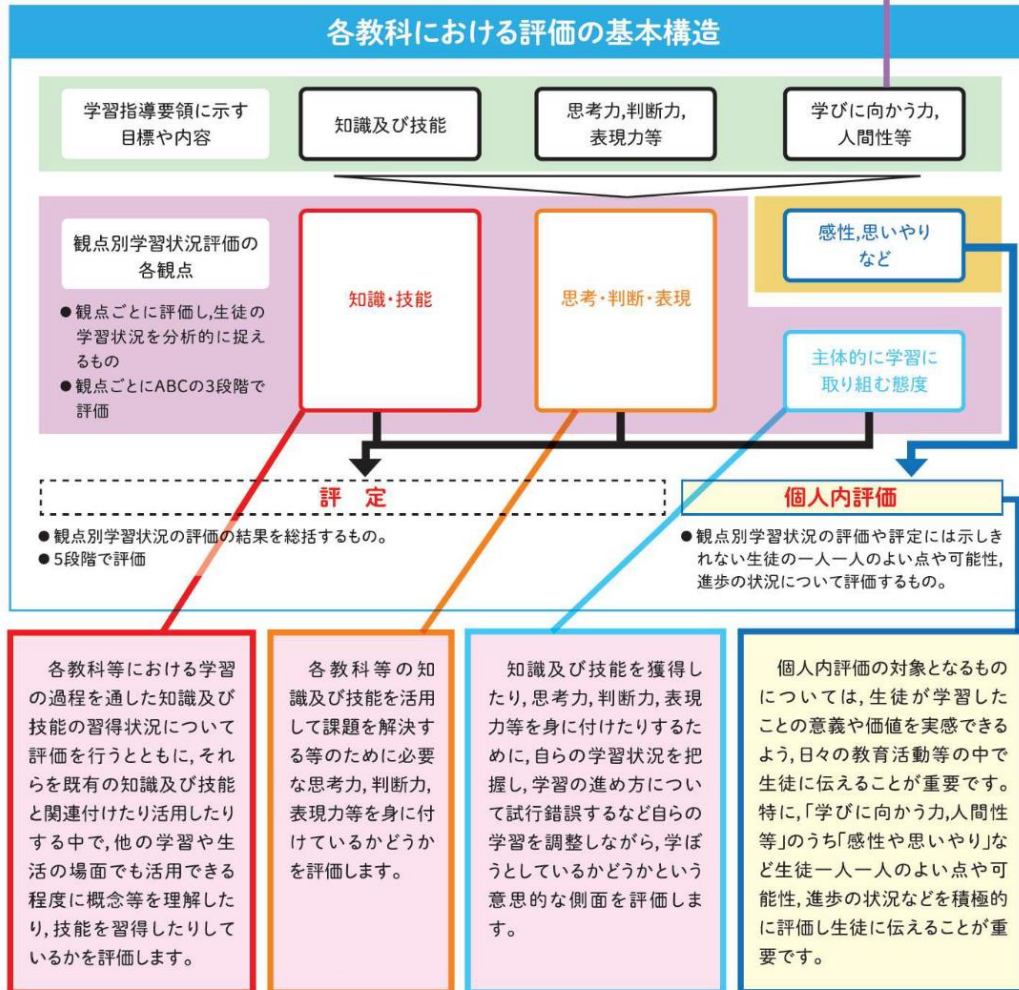
3 学習評価について

学習評価の基本構造

平成30年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されています。

「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



観点別学習状況の評価について

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えるものです。

「知識・技能」の評価の方法

「知識・技能」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視してきたところです。具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます。

「思考・判断・表現」の評価の方法

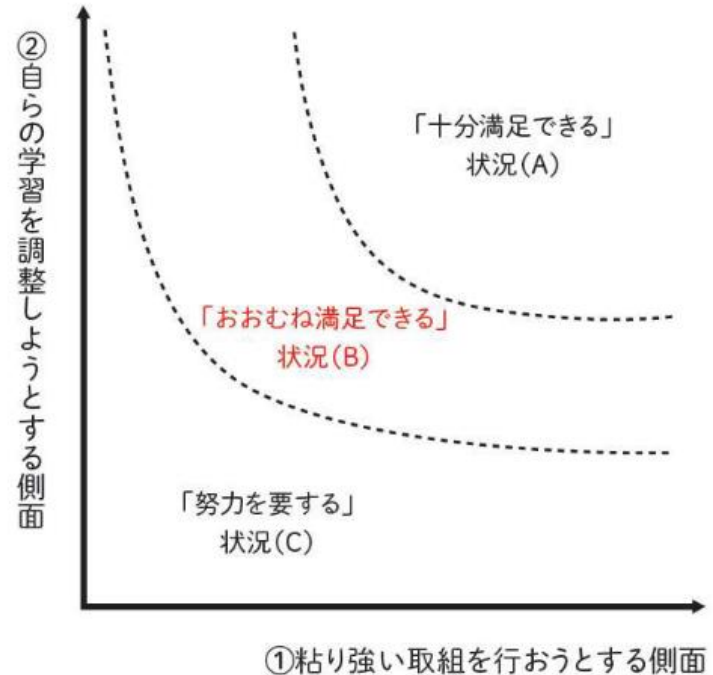
「思考・判断・表現」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「思考・判断・表現」においても重視してきたところです。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。
- これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場면을、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

学習評価の充実

学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫の例

- 評価規準や評価方法について、事前に教師同士で検討するなどして明確にすること、評価に関する実践事例を蓄積し共有していくこと、評価結果についての検討を通じて評価に係る教師の力量の向上を図ることなど、学校として組織的かつ計画的に取り組む。
- 学校が生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果についてより丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報をより積極的に提供し生徒や保護者の理解を図る。

評価時期の工夫の例

- 日々の授業の中では生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする。

学年や学校間の円滑な接続を図る工夫の例

- 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の学びをつなげることができるようにする。
- 入学者選抜の方針や選抜方法の組合せ、調査書の利用方法、学力検査の内容等について見直しを図る。
- 大学入学者選抜において用いられる調査書を見直す際には、観点別学習状況の評価について記載する。
- 大学入学者選抜については、高等学校における指導の在り方の本質的な改善を促し、また、大学教育の質的転換を大きく加速し、高等学校教育・大学教育を通じた改革の好循環をもたらすものとなるような改革を進めることが考えられる。

評価方法の工夫の例

高校生のための学びの基礎診断の認定ツールを活用した例

高校生のための学びの基礎診断とは、高校段階における生徒の基礎学力の定着度合いを測定する民間の試験等を文部科学省が一定の要件に適合するものとして認定する仕組みで、平成30年度から制度がスタートしています。学習指導要領を踏まえた出題の基本方針に基づく問題設計や、主として思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題等が認定基準となっています。受験結果等から、生徒の課題等を把握し、自らの指導や評価の改善につなげることも考えられます。

3 学習評価について

指導資料・事例集

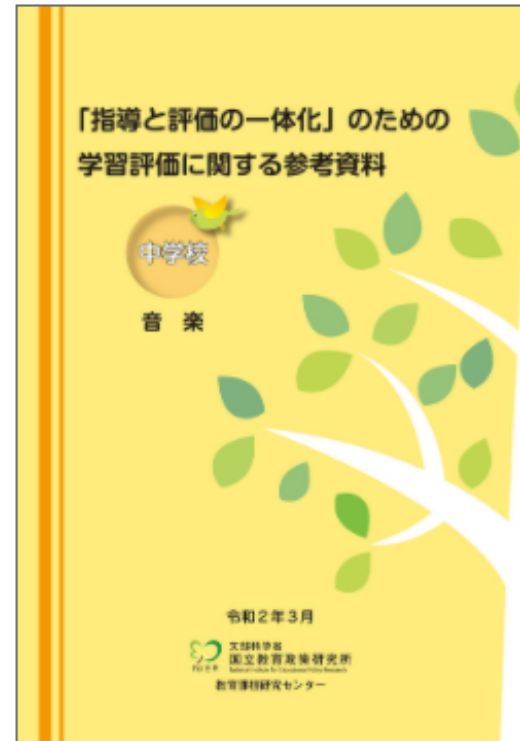
各学校における指導の改善等に資するため、指導資料や実践事例集を作成しています。

※WEB版では写真等を都合により非掲載としている場合があります。書籍版（市販物等）には掲載しています。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



小学校編



中学校編

3 学習評価について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）



高等学校編

「共通教科」

「専門教科」

3 学習評価について


「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料



高等学校

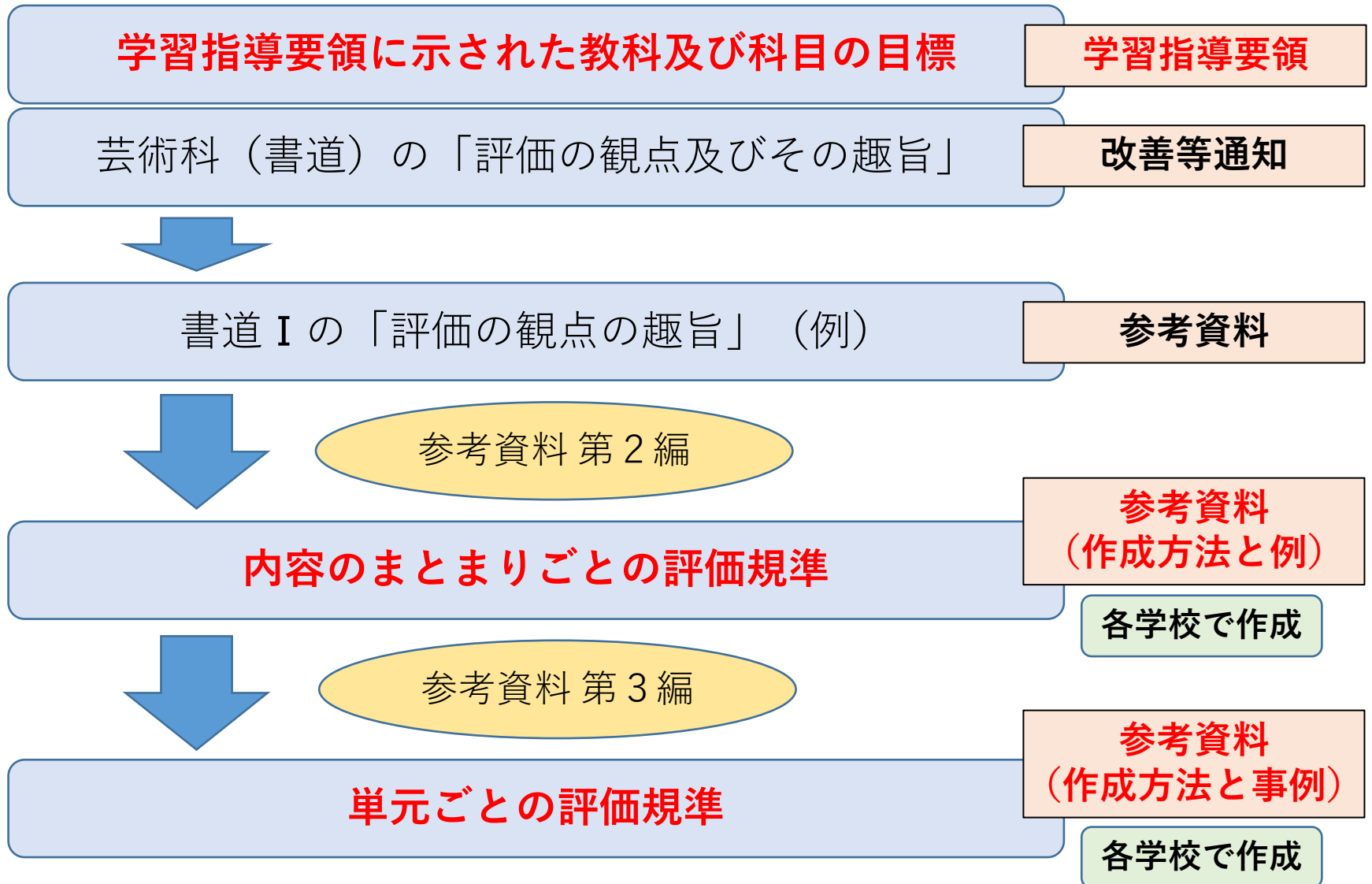
芸術（書道）

令和3年8月



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research
教育課程研究センター

内容のまとめりごとの評価規準， 単元ごとの評価規準の作成



「内容のまとめり」

学習指導要領に示す各教科等の目標及び内容の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したもの。

高等学校 芸術科（書道）の「内容のまとめり」

（例）書道Ⅰ

「A 表現」(1) 漢字仮名交じりの書 及び〔共通事項〕(1)

「A 表現」(2) 漢字の書 及び〔共通事項〕(1)

「A 表現」(3) 仮名の書 及び〔共通事項〕(1)

「B 鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

「内容のまとめり」

「A 表現」

(1) 漢字仮名交じりの書
及び〔共通事項〕(1)



「A 表現」(2) 漢字の書
及び〔共通事項〕(1)



「A 表現」(3) 仮名の書
及び〔共通事項〕(1)



「B 鑑賞」(1) 鑑賞
及び〔共通事項〕(1)



「内容のまとめりごとの 評価規準」

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

第2編

「内容のまとめりごとの評価規準」
を作成する際の手順

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料（案）

高等学校 芸術科（書道）

国立教育政策研究所



例示した内容のまとめり（2例）

「「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書
及び〔共通事項〕(1)」

「「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)」

評価規準の作成に当たって

<知識・技能の知識>

「知識」の評価規準の作成に当たっては、イの(ア)及び(イ)の指導事項の文末を「～**について理解している**」とし、学習状況として表すことにより評価規準とすることができる。

<知識・技能の技能>

「技能」の評価規準の作成に当たっては、「A表現」のウの(ア)及び(イ)の指導事項の文末を「～**の技能を身に付けている**」とし、学習状況として表すことにより評価規準とすることができる。

<思考・判断・表現>

「思考・判断・表現」の評価規準の作成に当たっては、「A表現」のアの(ア)から(ウ)（「漢字の書」及び「仮名の書」では(ア)及び(イ)）の指導事項を「～**について構想し工夫している**」とし、学習状況として表すことにより評価規準とすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

学習指導要領における書道Ⅰの目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の内容を参考にする。

※ 必要に応じて書道の評価の観点の趣旨（「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分）等を用いて作成する。

3 学習評価について

学習指導要領 「書道 I」 「A 表現」 (1) 漢字仮名交じりの書 及び〔共通事項〕 (1)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領 2 内容	<p>〔共通事項〕 ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。 イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。</p> <p>「A 表現」 表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 漢字仮名交じりの書 漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 目的や用途に即した効果的な表現 (イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現</p>	<p>「A 表現」 表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 漢字仮名交じりの書 漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。</p> <p>(ア) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 (イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現 (ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現</p>	<p>※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当科目の目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にする。</p>

3 学習評価について

「書道 I」 「A表現」(1)漢字仮名交じりの書 及び〔共通事項〕(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」(例)

内容のまとめりごとの評価規準例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<div data-bbox="181 422 730 496" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">〔共通事項〕</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・ 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・ 目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。 ・ 漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・ 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・ 名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 	<p>主体的に「漢字仮名交じりの書」の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 学習評価について

「書道Ⅰ」 「A表現」(1)漢字仮名交じりの書 及び〔共通事項〕(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」(例)

内容のまとめりごとの評価規準例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p data-bbox="183 421 730 496">〔共通事項〕</p> <ul data-bbox="183 506 730 1163" style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。 	<ul data-bbox="782 435 1342 942" style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 <p data-bbox="795 1110 1591 1239" style="color: red; text-align: center;">評価規準として設定する必要はない。</p>	<p data-bbox="1381 435 1864 635">主体的に「漢字仮名交じりの書」の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>

第3編

單元ごとの学習評価について
(事例)

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料（案）

高等学校 芸術科（書道）

国立教育政策研究所



取り上げた事例（1例）

「漢字仮名交じりの書」の創作

「「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書
及び〔共通事項〕(1)」と
「「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)」
の複合単元

単元ごとの評価規準の作成

内容のまとめりごとの評価規準



単元の目標や内容に応じて
文言等を変更

学習指導要領に示された
目標や内容を踏まえて作成

単元ごとの評価規準

3 学習評価について

第3編で取り上げた事例

「書道Ⅰ」における
「「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書 及び〔共通事項〕(1)」
と
「「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)」
の **複合単元**



「書道Ⅰ」における
「「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書 及び〔共通事項〕(1)」
と
「「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)」
の「内容のまとめりごとの評価規準」に基づいて
「単元の評価規準」を作成

3 学習評価について

「書道 I」における
「A 表現」(1) 漢字仮名交じりの書 及び 「共通事項」(1)
と
「B 鑑賞」(1) 鑑賞 及び 「共通事項」(1)
の 複合単元

第 3 編で取り上げた事例は 1 例（芸術科で統一）



「漢字仮名交じりの書」は、およそ単一の単元で設定
（本事例では三単元構成のうちの第二単元）

「漢字の書」「仮名の書」では、臨書・創作など、大小の複数の単元を設定可能



「内容のまとまりごとの評価規準」のうちから
単元の目標及び学習指導内容に応じて選択可能



「単元の評価規準」により「内容のまとまり」ごとに評価を総括できるように

学習指導要領に示した指導事項

A表現 (1) 漢字仮名交じりの書

(1) 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。

(ア) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成

(イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現

(ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり

(イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 目的や用途に即した効果的な表現

(イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現

B鑑賞 (1) 鑑賞

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって捉えること。

(ア) 作品の価値とその根拠

(イ) 生活や社会における書の効用

イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。

(ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり

(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化

(ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等

(エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態

内容のまとめりごとの評価規準

内容のまとめり「A表現 (1) 漢字仮名交じりの書」

●評価の観点「知識・技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。
- ・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。

○技能

- ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。
- ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。

●評価の観点「思考・判断・表現」

- ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。
- ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。
- ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。

●評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」

- ・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。

内容のまとめり「B鑑賞 (1) 鑑賞」

●評価の観点「知識・技能」

○知識

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。
- ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。
- ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。

●評価の観点「思考・判断・表現」

- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。
- ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。

●評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」

- ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

内容のまとめりごとの評価規準

内容のまとめり「A表現 (1) 漢字仮名交じりの書」

●評価の観点「知識・技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。
- ・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。

○技能

- ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。
- ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。

●評価の観点「思考・判断・表現」

- ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。
- ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。
- ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。

●評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」

- ・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。

内容のまとめり「B鑑賞 (1) 鑑賞」

●評価の観点「知識・技能」

○知識

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。
- ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。
- ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。

●評価の観点「思考・判断・表現」

- ・作品の価値とその根拠について考え、書によさや美しさを味わって捉えている。
- ・生活や社会における書の効用について考え、書によさや美しさを味わって捉えている。

●評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」

- ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

単元ごとの評価規準

単元「●●●●」

●評価の観点「知識・技能」

○知識【表現】

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。

○知識【鑑賞】

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。
- ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。
- ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。

○技能

- ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。

●評価の観点「思考・判断・表現」

○思考・判断・表現【表現】

- ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。

○思考・判断・表現【鑑賞】

- ・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書によさや美しさを味わって捉えている。

●評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」

○主体的に学習に取り組む態度【表現】

- ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。

○主体的に学習に取り組む態度【鑑賞】

- ・書によさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅白い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

科目の目標・指導事項



内容のまとまりごとの（目標）評価規準



単元ごとの目標・評価規準



※ 以下，設定・明記することは求められていない。
単元の目標・評価規準を分割して設定することは可能。

（書道の場合）

大単元の目標（評価規準）



小単元の目標（評価規準）

3 学習評価について

学習状況を見取る主な学習活動（例：「漢字仮名交じりの書」の創作）

観点・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現					主体的に学習に取り組む態度						
	知	技	思					態表		態鑑				
主な学習活動	観点の確認	意見交換	作品制作（作品）	言葉の選定	構想・工夫（構築・再構築）	構想・工夫の見直し	意見交換（構想・工夫の言語化）	最終自己評価	単元の学習のまとめ	構想・工夫（表現の工夫）	作品制作（取り組む態度）	鑑賞（相互鑑賞・名筆等鑑賞）	意見交換（相互批評・交流）	単元の学習のまとめ

3 学習評価について

評価する時期や場面の精選

「指導に生かす評価」の場面, 「記録に残す評価」の場面

観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知識	技能		
第1時				
第2時	記録		記録	
第3時		記録		記録

注意!
「評価規準」1つ
に対して
「記録に残す評価」
の場面は1つ

記録に残す評価

3 学習評価について

評価する時期や場面の精選

「指導に生かす評価」の場面, 「記録に残す評価」の場面

観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知識	技能		
第1時	◎		◎	
第2時	記録		記録	◎
第3時		記録		記録

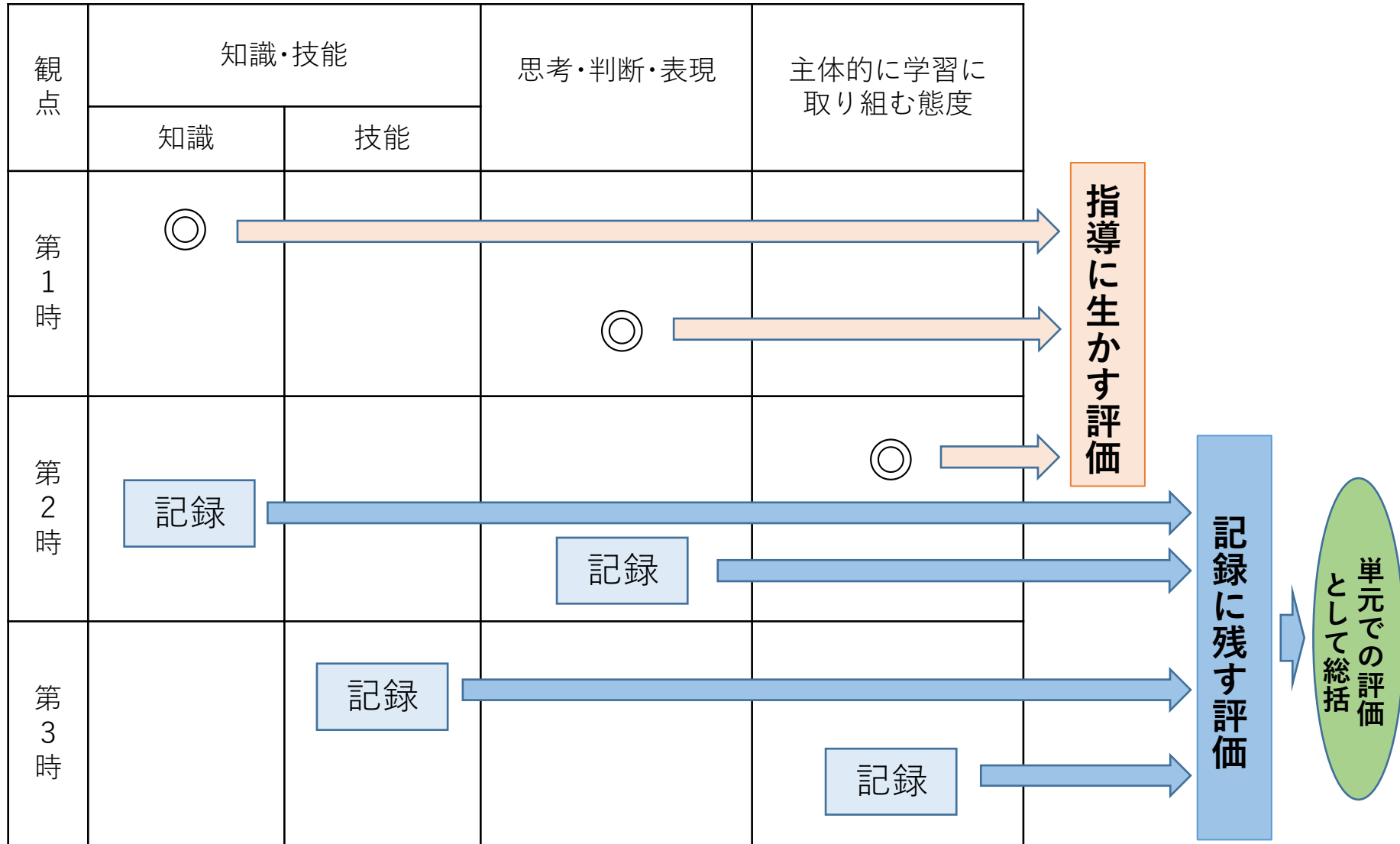
指導に生かす評価

「指導に生かす評価」の場面は
観点ごとの設定数に
一定の決まりはなく
適宜設定可能。

3 学習評価について

評価する時期や場面の精選

「指導に生かす評価」の場面, 「記録に残す評価」の場面

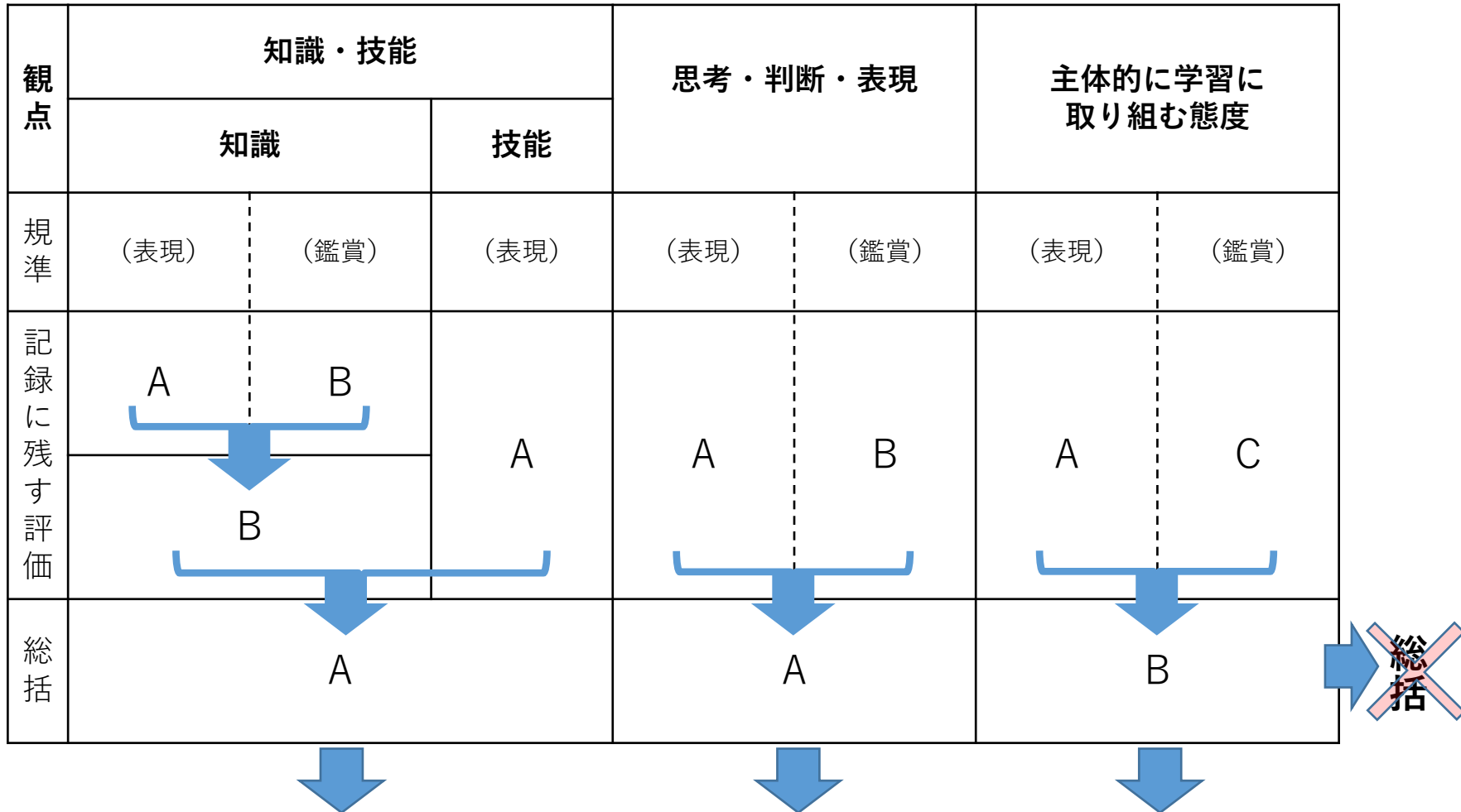


3 学習評価について

評価する時期や場面の精選 「A表現」「B鑑賞」複合型の単元の例

観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	知識	技能				
規 準	(表現)	(鑑賞)	(表現)	(鑑賞)	(表現)	(鑑賞)
第 1 時	◎			◎		
第 2 時			◎		◎	
第 3 時		記録		記録		◎
第 4 時	記録					
第 5 時		記録	記録		記録	記録

単元の評価の総括



(題材 →) 単元 → 内容のまとめり 観点ごとに総括 → 学年評定として観点の評価を総括

全日本高等学校書道教育研究会
第46回大会（愛媛大会）

**新しい教育課程と
これからの高等学校芸術科書道
～学習評価を中心に～**

文部科省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

豊口 和士

令和3（2021）年10月20日